



今回は、サクラを愛でながら古墳を訪ねる、片道3.5kmのコースを歩いてみましょう。
上川淵市民サービスセンターから西に向かい、しばらく進むと左側に竪穴式住居が見えてきます。古代米の稲わらを使用して建てられたこの住居。毎年収穫の終わった農地に、地区の人たちが地域づくりの一環として作製しているもので、ことしは5月の下旬まで見ることができ
ます。
そこから北に向かい信号を右折。70

前橋 ウォーカー 春の日差しを浴びながら古墳を巡る



上川淵地区

0歳ほど進むと突き当たり小高い丘が見えてきます。これは4世紀後半に造られたといわれる国指定史跡・八幡山古墳です。全長は130m。本県で最も古い大型古墳の一つで、四角と四角の組み合わせからなる前方後方墳としては、東日本一の規模を誇ります。
古墳から北西に向かい、信号を右折。その先を左折してしばらく進むと、左側に朝倉町公園があります。公園内にはおよそ20本のサクラの木が植えられていて、美しい薄ピンクの花びらは、きっとあなたに元気をくれるでしょう。
さらに道なりに進み、文京郵便局東の交差点を左折し約300m進むと、右手に見えてくるのが国指定史跡・天川二子山古墳です。こちらは6世紀後半に造られたといわれる前方後円墳で、併設されている公園は地域の交流の場になっています。春の柔らかな日差しの中、公園のベンチで日なたぼっこなんていかがですか。



中にも入れます



静かにたたずむ八幡山古墳

朝5時半に起床。朝食後、妻を仕事に送り出し、子どもを幼稚園に送る。洗濯、掃除、買い物をして夕食の準備。これが長女が生まれてから6年半続けた天宮さんの生活。このときの体験談を、育児をする男性（イクメン）を応援する厚生労働省の「イクメンプロジェクト」のサイトに投稿したところ、「イクメンの星」に県内で初めて選ばれた。
「妻が大学で家政学を研究していたこともあり、日頃から家族のあり方について夫婦で話し合っていました。妻が長女を妊娠し、さらに出産に立ち会ったことにより父性が芽生え、積極的に育児をしたいという気持ちが強くなりました」
妻は産後2カ月で職場復帰。育児の知識はほとんどなかったため、何冊もの育児本を頼りに試行錯誤の毎日。子育てへの不安もたくさんあった。

「社会から取り残されているような焦りや不安もありましたが、それ以上に今しかできない経験に幸せを感じました」
東日本大震災で福島県の自宅マンションが全壊したため、昨年4月に実家のある大友町に転居した。現在は3姉妹（7歳、5歳、3歳）を育てながら高工高で働く兼業主夫。育児や仕事の傍ら、幼児を対象とした工作・実験教室や、長女が通う小学校の読み聞かせ教室などでボランティア活動を行っている。
「育児をしている奥さんを理解してあげるだけでもイクメンです。奥さんの話を良く聞いて、気持ちを共有してください」
天宮さんのエールが多くの男性に届いてもらいたい。



第10回「イクメンの星」に輝く
天宮 賢也さん 33歳
大友町二丁目

クローズアップ



震災の記憶を次の世代へ

3月9日から11日まで、ミニギャラリー千代田で東日本大震災写真展を開催。発生から1年を迎えるに当たり、震災の記憶を風化させないことを目的に行ったもの。震災当時の写真65点をはじめ、支援に対する被災者からのお礼のメッセージなどを展示しました。



赤城街道の歴史に触れて

3月15日、文化財探訪を富士見地区で開催。文化財の意義や保護管理の重要性について理解を深めることを目的に行ったこの催しに23人が参加。集まった人たちは安楽寺や珊瑚寺、船津伝次平の墓を巡りながら、歴史ある文化財の話に熱心に耳を傾けていました。



伝統技術を間近で見ると

3月15日、上野総社神社で本殿保存修理工事見学会を開催しました。宮司や工事施工者から説明があった後、ふき替え作業中の屋根を間近で見学。数え切れないほどの木の薄板を重ねて作られたこけらぶきの美しい屋根に、多くの参加者たちが見入っていました。



関本照雄議長



梅澤百合子副議長

新しい市議会正副議長が決定

市議会の3月臨時会を3月16日から29日まで開催しました。議長に関本照雄議員、副議長に梅澤百合子議員を新たに選出。また、平成24年度暫定予算や平成23年度補正予算、介護保険条例や市税条例の改正などの議案を審議しました。